インターネット版
2013年 1月発行 Vol. 04
広報 ながのけん NAGANO
01

特集

歌い継がれる県歌「信濃の国」

（写真提供：信州・長野県観光協会）

「信濃の国は十州に・・・」から始まる長野県歌「信濃の国」。

曲が流れると思わず口ずさんでしまう人も多いこの歌が県歌に制定されてから今年で45年になります。

「信濃の国」は、長野県民だけでなく多くの皆さんに愛され、歌われてきた名曲。

この曲の歴史や県歌制定に携わった方のインタビューなどを通して「信濃の国」を紹介します。

唱歌「信濃の国」の誕生

「信濃の国」は、1899年（明治32年）に長野県師範学校教諭の浅井 洌（きよし）が作詞、翌1900年（明治33年）に同校教諭の北村 季晴（すえはる）が作曲しました。

「信濃の国」はもともと信濃教育会(注) が作った唱歌です。

当時は教育の場にも日清戦争の影響が及んでおり、これを心配した同会が戦争とは離れたテーマを教材とすることを目的に長野県師範学校の教諭に作成を依頼したもので、「地理歴史唱歌」６作品の中の１つでした。

1900年（明治33年）10月に行われた師範学校の運動会で女子部生徒の遊戯（今でいえばダンス）に使われたのが、「信濃の国」が初めて披露された場であるといわれています。

その後「信濃の国」は、師範学校の卒業生が県内の学校で生徒に教えたことにより各地に広がり、歳月を経て、親から子へ、子から孫へという形で歌い継がれてきました。

（注）信濃教育会：現在の公益社団法人信濃教育会。長野県の教育向上を図る目的で設立された、県下の小・中・高・特別支援学校及び大学の教職員等による団体。研修や教育・学術図書の研究などを実施。

作詞者：浅井 洌
（1849～1938）

松本藩士の家に生まれる。1886年（明治19年）に長野尋常師範学校（後に長野県師範学校と改称）教諭となって長野に移り、以降1926年（大正15年）まで40年間同校に勤めた。

（写真提供：公益社団法人信濃教育会）

作曲者：北村 季晴
（1872～1931）

東京生まれ。1899年（明治32年）11月から1901年（明治34年）２月まで長野県師範学校教諭として勤めた。その後、東京に戻り数々の曲を発表。児童歌劇の発展などにも尽くした。

（写真提供：公益社団法人信濃教育会）

「信濃の国」の歌詞はこちら▶　|　こちらからは、「信濃の国」を聞くことができます。▶

作詞者の名前は「レツ」？「キヨシ」？

浅井の名前「洌」には２通りの読み方が伝わっています。1968年（昭和43年）に県歌に制定する際、ご遺族にお聞きしたところ、「祖父は一般的には『キヨシ』と呼ばれていた。」ということで、県は「キヨシ」として公告しています。その一方で、「1872年（明治5年）の戸籍に『レツ』とルビが振ってある」という説もあります。

こうしたことから、現在でも「レツ」と「キヨシ」の両方で読まれています。

問い合わせ先　■総務部広報県民課　電話：026-235-7110　E-mail koho@pref.nagano.lg.jp

特集

歌い継がれる県歌「信濃の国」

県歌「信濃の国」の歴史を語る

県歌「信濃の国」には、長い歴史があり、エピソードも豊富。

そこで、「信濃の国」の県歌制定当時、県の初代広報県民室長として携わり、今なお、「信濃の国」の研究を続けている太田今朝秋（おおたけさあき）さん（長野市文化芸術協議会顧問）に「信濃の国」にまつわるお話を伺いました。

— 「信濃の国」が県歌として制定された経緯を教えてください。

太田： 昭和41年に県章や県旗などを制定しましたが、県歌だけは既に「長野県民歌」があったため、別途審議となりました。「長野県民歌」はご存知ですか?

— 初耳です。教えてください。

太田： 昭和22年に公募により選定されているんです。（歌詞・楽譜はこちら）普及に努めた形跡はあるんですが、あまり浸透しませんでした。一方で、「信濃の国」は誰でも歌えますよね。

— 確かにお年寄りから子どもまで歌えると思います。

太田： 昭和43年2月に白馬村でスキー国体が開催され、私は県の実行委員会の広報担当でした。会議の席上、開会式で長野県らしい曲を演奏しようということになり、「信濃の国」を提案し、採用されました。当日、都道府県旗掲揚の際に「信濃の国」を演奏したところ、観客席にいた県民が一斉に立ち上がり、一緒に歌い始めたんです。3千人くらいでしょうか。事前の打ち合わせもなく大合唱となったので、驚くと同時に感動しました。これを機に「信濃の国」こそが県歌にふさわしいのではないかという世論が形成され、同年5月に県歌として制定する運びとなりました。

— 長野県民の多くは、「信濃の国」のメロディーを聞くとつい歌ってしまいますよね。大合唱により、長野県が分裂するのを救ったエピソードを聞いたことがあります。

太田： 昭和23年～24年に起きた「分県論」の時ですね。県庁舎の一部が焼失したことを発端に、北信側（長野県の北部・東部）と南信側（長野県の中部・南部）の対立が激しくなり、県議会が分県についての特別委員会を設置し、審議の結果、分県案は委員会では賛成多数となりました。しかし、この案が通過すれば、長野県は2つに分かれるという本会議の日に、分県に反対する北信側は約千人の県民を動員。そして、委員長が特別委員会の結果を報告するため登壇するや否や傍聴席と議会の周囲から一斉に「信濃の国」の大合唱が始まりました。これを聞いた委員長は、「信濃は一つだ」という思いが込み上げ、壇上で絶句してしまったそうです。結果はご存知のとおり、分県は不成立となりました。

— なるほど。「信濃は一つ」を象徴するようなエピソードは他にもありますか。

太田： 昭和51年に県内の54万戸から10円ずつ、小中高校の児童生徒30万人から1円ずつの寄付を募り、県庁東側と松本運動公園に「信濃の国」の歌碑を建てたことです。信濃教育会が長く記念に残る文化事業として企画しました。筑摩県と長野県が合併(注)して100年、「信濃の国」の生みの親、信濃教育会が設立して90年の節目の年でした。大口の寄付や行政からの補助は一切断り、一大県民運動として実施されたもので、このような形で歌碑を建てたというのは聞いたことがありません。

（注）明治４年の廃藩置県により、筑摩県（主に長野県の中部・南部と岐阜県飛騨地方）と長野県（主に長野県の北部・東部）が置かれました。その後、明治９年の筑摩県庁舎の焼失を機に、飛騨地方を除く筑摩県と長野県の合併が行われました。

松本運動公園入口に建立されている歌碑

長野県庁での歌碑除幕式（写真提供：公益社団法人信濃教育会）

歌碑の除幕式は、長野、松本とも千人近くが参加して行われましたが、感激の涙を流し、「信濃の国」を歌いながら綱を握りしめている参加者の姿が目に焼き付いています。

— まさしく県民が一つになれる歌ですね。

太田： そうです。長野オリンピックの開会式でも日本選手団の入場行進が始まるとともに「信濃の国」が流れたんですよ。その時も日の丸の小旗を振りながら、一斉に客席から立ち上がった観客が歌い始めたんです。世界中に「信濃の国」が流れた瞬間です。

歌は、大勢の人に長く歌われるのが名曲であるといわれますが、そういうことからいえば、「信濃の国」は間違いなく名曲です。

どうか多くの方々に「信濃の国」を知っていただき、末永く歌い続けていってほしいと思います。

「信濃の国」をもっと知るために

ここからは「信濃の国」についての
豆知識をご紹介します。
これを知っているあなたは、
かなりの「信濃の国」“通”です。

特集
歌い継がれる県歌「信濃の国」

今の「信濃の国」は２代目

当初「信濃の国」の作曲は、1899年（明治32年）に長野県師範学校の依田弁之助教諭（上田市出身）によって行われています。依田版「信濃の国」は雅楽調のゆったりした旋律でした。　（楽譜はこちら）

優雅ではありましたが、単調だったため、あまり歌われなかったのではないかと伝えられています。

歌いやすい歌詞

信濃の国が歌いやすいのは、七五調の整った歌詞によるものです。

歌詞は

1番：自然の恵みをたたえる
2番：大自然に守られている郷土
3番：県が誇る産業
4番：名所旧跡
5番：郷土が生んだ偉人
6番：未来に向けての決意と激励

に分かれています。歌詞を読むと県内をグルッと一回りも二回りもしたような気持ちになり、6番まである長い歌を最後まで飽きさせないための工夫がうかがわれます。

４番の転調

寝覚めの床（写真提供:信州・長野県観光協会）

「信濃の国」は4番で曲調が変わり、優美な景観を歌うのにふさわしく、ゆったりとした曲になっています。6番まである曲に変化をつけると同時に、「寝覚めの床」、「姨捨山」の2カ所の字余りを解消し、歌詞の一字一句をはっきり歌えるようにするための緻密な配慮です。

「信濃の国」のアレンジ

「信濃の国」は、最初に運動会で発表されて以来、今でも小学校の運動会で踊られており、ダンスバージョンやJ-POP風のCDが販売されています。これ以外にも蓼科高等学校ジャズクラブによるアレンジなどがあります。

「信濃の国」の歌詞こぼれ話

◆ 信濃の国と境連ぬる『十州』について

１番の冒頭「信濃の国は『十州』に境連ぬる」とあります。これは①越後（新潟県）②上野（群馬県）③武蔵（埼玉県）④甲斐（山梨県）⑤駿河（静岡県の東部）⑥遠江（静岡県の西部）⑦三河（愛知県）⑧美濃（岐阜県の南部）⑨飛騨（岐阜県の北部）⑩越中（富山県）のことを指しています。

現在でも長野県は８県に接しており、隣接している都道府県数が全国で最も多い県です。

◆ 4番の地名について

４番で歌われている『筑摩の湯』は現在の美ケ原温泉から浅間温泉にかけての一帯だといわれています。なお、『園原』（阿智村）『寝覚めの床』『木曽の桟』（上松町）『久米路橋』（長野市）『姨捨山』（千曲市）のいずれも長野県内の名勝です。

久米路峡・犀川（写真提供:信州・長野県観光協会）

◆ 5番の人名について

「5番で歌われている『仁科の五郎信盛』は『仁科の五郎盛信』ではないのですか」というご指摘をお寄せいただくことがあります。作詞された明治時代には“信盛”と“盛信”の両方が使われており、県では、長く歌い継がれてきた原作詞・作曲を尊重する観点から作詞された当時の歌詞をそのままとしています。

仁科五郎信盛
（伊那市立高遠歴史博物館 蔵）

佐久間象山（象山神社 蔵）

また、佐久間象山も“ショウザン”“ゾウザン”の二通りの読み方がありますが、地元松代で昔から親しまれている『象山“ゾウザン”佐久間先生』と歌われています。

さらに詳細な歌詞の意味や歌詞に出てくる用語については、こちらからご覧いただけます。

県歌「信濃の国」を知っていただき、「長野県は一つ」という願いが込められた歌であることを感じてください。

（ページ上部写真提供：信濃の国プロジェクト実行委員会 株式会社 プラルト）

信州を選んだ私たち #4

～移住者の声をご紹介します～

大町市

花田 直行 様　真里 様
結優（ゆう） さん

移住された方の体験談を通じて、信州の魅力や移住のポイントをお伝えする「信州を選んだ私たち」。

第４回は、北アルプスのふもと大町市に移り住んで６年目になる花田さんご一家です。

兵庫県から信州の冬の魅力にあこがれて移住してきた花田さんにお話を伺いました。

きっかけはアルバイト

今から10年前、仕事を辞め、冬場のアルバイトを探していたら、栂池スキー場での仕事が目に入り、休憩時間にスノーボードができるという点にもひかれて応募しました。スキー場でリフト係などをしている時に、よく夕食を食べに行っていた居酒屋のオーナーに誘われ、夜はそこでもアルバイトをすることになりました。

冬期間はスキー場で、夏は地元に帰って働くという生活をしばらくしていましたが、３シーズン目には、夏も立山黒部アルペンルートのレストランで働くようになり、２年近く長野県で暮らしました。そんなある日、オーナーから「自分で店を出してみないか。」との誘いをいただきました。「いつかは店を持ちたい」と考えていましたが、具体的には何の準備もしていなかったので、正直焦りました。即答とはいきませんでしたが、しばらく考えて、やってみようと決心しました。

それからは、地元に帰って独立開業の準備です。資金確保はもちろんですが、時間ができたら新世界（大阪の飲食店街）に通い、どんな店にするか考えを巡らせました。

準備が整って、大町に開業したのは６年前です。最初は居酒屋でしたが、2011年に現在の場所（大町名店街）に移転する際に、長野県ではあまり見かけない本格的な串揚げ屋としてオープンしました。

店舗外観

大町での暮らし

大町は、街の人たちが優しくて、ゲレンデにも程よい近さで気に入っています。もともとスキー場で働いていたので、雪も寒さもそれほど気になりません。

１歳９カ月の娘は、近所の畑で泥遊びをしたり、大根を引っ張ってみたりしながら遊んでいます。私の地元とは環境が全く違い、こういう自然豊かなところで育つ子どもは幸せだなぁと感じています。大きくなったら家族でスノーボードをするのも今から楽しみです。

人と人とのつながりの中で

消防団や隣組なども初めてで、戸惑いもありました。

冬の大町

引っ越してすぐに近所の人が亡くなって、お葬式に出ることになり、「大変やな」と感じました。でも、暮らしているうちに「こうやって助け合っているんだな」と分かるようになり、受け入れることができました。

都会に住んでいると、田舎は人が少ないから人付き合いが少ないと思いがちです。人付き合いが嫌で田舎暮らしをするというのは全く逆で、田舎暮らしこそ人付き合いが重要です。

大町の人は、私が育った関西と違って、打ち解けるまで時間がかかるというのが率直な感想です。でも、打ち解けてしまえば、隣人であっても家族と同じように接してくれるので、自分たちもそれに応えたいという気持ちになります。

移住にあたって大切だと思うもの

移住についてどのくらい真剣に考え、調べたかというのが大切だと思います。

自分は、4年間アルバイトで信州に通い、移住に際してもいろいろ調べました。でも実際に住むとなるとまだまだ知らなかったことがたくさんあったし、いまだにあります。

あらかじめその土地のことを調べて、知っておけば、こんなはずではなかったと思うことも少なくなります。

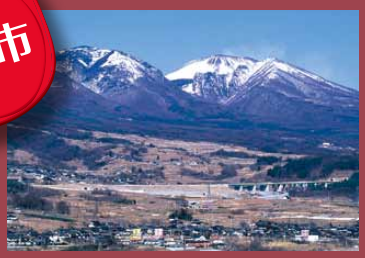
また、事前に思い描いていたことと違う結果になってしまった時にどう対処するか考えておくことも大事なことだと感じています。

■大町市企画財政課定住促進係　http://www.city.omachi.nagano.jp/ctg/00002801/00002801.html

移住・交流に取り組む市町村のご紹介

小諸市

移り住むなら わが街へ



浅間山の南麓に広がる小諸市は、懐古園や文豪島崎藤村が６年間過ごし、作品の舞台としたことでも知られる歴史と文化が息づく城下町です。

年間日照時間は全国でもトップクラス。冬の寒さは厳しいですが、信州の中でも降雪量は少ない地域です。青空の下、凛とした空気を感じてみませんか。

移住希望の方には、市役所が窓口となり、住居探しのお手伝いをしています。詳しくは、市の概要をはじめ、暮らしに関する情報や先輩移住者の声など、移住情報をまとめたパンフレット（下記URL）をご覧ください。

■連絡先：企画課 まちづくり推進係
■ＵＲＬ：http://www.city.komoro.nagano.jp/www/contents/1333075930370/files/panf.pdf
■電　話：0267-22-1700（代表）　■E-mail　machi@city.komoro.nagano.jp